



## ～主な内容～

1. 卷頭言
2. 後志教育講演会から
3. 新任先生奮闘記
4. 実践の広場
5. 学校紹介
6. 北海道教育研究所連盟  
共同研究について
7. 研修講座の風景



総合的な学習（5・6年生）  
『作物を詳しく知る研究』  
～外部講師を招いて～  
留寿都村立三ノ原小学校



学校祭 全校合唱  
『広島の有る国で』  
仁木町立銀山中学校



「敷島の大和の国は言の葉の海」

暑い国インドでさえ、暑さの程度を表す言葉は標題にある三つしかないと聞いています。日本語では、「やや暑い・少し暑い・蒸し暑い」から始まって、「うだるような暑さ」まで、数え上げたらきりがありません。

今年度中に改訂が予定される学習指導要領について、中央教育審議会は、先般八月十六日、基本方針「ゆとり教育」から「確かな学力の向上」に転換した上で、言葉は学力向上の根幹であり、人間関係構築の礎となり得るので、今後自分の考えを文章や言葉で表現する「言語力」を全教科で育成する方針を固めたとありました。

明治維新の折にも、欧米文化をいち早く取り入れることができたのは、日本語への翻訳が大変うまくスムーズに行われたからと聞いております。教職にかかる者としては、豊かな言葉を次世代に確実に伝えたいものです。

「暑い・やや暑い・最も暑い」  
後志教育研修センター副所長  
(俱知安町立俱知安小学校長)  
平 正 博

(財)北海道教職員厚生会教育活動奨励助成事業  
**「後志教育講演会」** 兼 第40回後志管内教職員夏季研修会

## 『今、子どもたちは…』

「私たちにできること、しなければならないこと、

**講師 水 谷 修 氏**

期日 平成十九年八月九日(木)  
 会場 ニセコ東山プリンスホテル



### [講演の記録より]

例年実施している講演会ですが、今年度は講師に、「夜回り先生」として有名な水谷 修氏を迎えて実施いたしました。講師が著名な方なので、参加者が多いことが予想されたため、各種学校の教職員、教育関係機関、PTA(保護者)、一般と順次希望を募り、七七〇名をもつて打ち切らせていただきました。その後も開催当日まで多くの申込の電話が入るなど、氏の人気の高さを再認識させられました。

氏の体験から得た子どもへの理解と深い愛情、そして、確固たる指導観、加えて「このままではいけない」という切実感が氏の体全体からほとばしり出て、その語りに聴衆は引き込まれ、中には涙しながら聞き入る方もいらつしやいました。講演を聞きながら、演題にあるように「私たちにできること、しなければならないこと」は何かを深く考えさせられた有意義な講演会となりました。



『夜回り』先生をしている。

子ども達の相談を受ける中で水谷氏は、「子ども達に関わる諸問題の原因は我々大人の側にある」と断言している。「経済の不安定さ、不況によるリストラ等社会は様々なストレスを抱えるようになつた。一例として、そのストレスを家庭に持ち込み、父親が母親に不満をぶつける。子どもは親から受けたストレスをどこに発散すればよいのか。その果てがいじめやリストカット、薬物など非行問題に繋がっている。また、問題を深刻化させている原因に『携帯電話』がある。携帯電話の使用をなくすれば不登校の七・八割、深刻ないじめの五割は減少する。更に深刻な非行問題に『薬物使用』がある。北海道は大麻の自然自生などもあり、全国的に見て環境的には良くない状況にある。ここで大切なことは『薬物依存症は病気である。病気は愛の力では治せない。病気はその専門家の医師の治療が必要』という認識を持つことである」と水谷氏は主張している。

週末は午後十一時以降に各地の繁華街に行き、中高生と思われる若者達に「帰りなさい。何があるならこの水谷が朝まで相談に乗る」と声をかける





が悪いことをしたいことを十分認識している。大人は感情で叱つてはいけない。何よりも家庭が円満であることが大切である。子どもは不完全だからこそ『子ども』なのである。正義だけでは子どもは育たない。過去の問題を責めるだけでは改善されない。『今まで』より『今から』を大切にする。本当はどの子どもも大人に優しくしてほしがっている。子どもが困った時に一番身近な大人が一緒に悩み考へること。子どもを救うには『一人の大人が優しく寄り添うこと』が大切である。』

最後に水谷氏は講演を続ける理由を「子ども達を夜の世界から昼間の世界に戻しても昼間の世界が病んでいてはダメなので講演を続けてこらね。自分には講演を通してしかそれが出来ない」と語った。

サイン

余市町立旭中学校

教諭  
野  
里  
岳  
司



六ヶ月を終えて

小樽市立量徳小学校



量徳小学校で、念願であつた教師という仕事のスタートをきり六ヶ月がたちました。三年生の子供たちと一緒に勉強したり体育館で汗びっしりになるまで走り回ったりすることはとても楽しいです。

新鮮な気持ちで

岩内町立岩内西小学校



期限付として四年間お世話になつた岩内西小学校に、この春から初任者として引き続き勤務することになりました。今までどおりの環境で教員生活のスタートをきることができた自分は、様々な面で大変恵まれてゐる感じます。しかし、向き合う子どもたちは、日々違つた一面をのぞかせてくれ、毎日が新鮮な発見の連続です。どうやつてこの子達の力になれるかを考

伝心力

泊村立泊中学校



念願の教師生活に胸をふくらませてスタートを切つてから、もう半年が過ぎようとしています。最近よく考えることは、休み時間の生徒との語り合い、交流の大切さです。生徒の中で、休み時間にドラムを叩くことが流行っています。ハイハット、スネア、バスドラを並べただけのものですが、目を輝かせて取り組んでいます。個人の課題を求めて来る生徒は楽しそうで、その姿が微笑ましく、心が温かくなります。授業、部活以外の時間も生徒の成長のために有意義に使い、自分なりの伝心力を模索し続けたいと思います。

けてしまうこともあります。未熟さを痛感しました。これからは計画性をもつて仕事に取り組み、子供たちをはじめ、周囲の皆様から信頼される教師となるべくなお一層努力していきたいと思います。

える時間はとても充実しています。  
慣れた環境に甘えることなく、いつも新鮮な気持ちで、子どもたちと共に成長していきたいと思いま  
す。

## 感謝と勉強の日々



小樽市立長橋中学校  
教諭 設 楽 千佳子

毎朝、生徒と挨拶を交わす度、明るい笑顔、瞳の輝き、流れる言葉とし

た声から、満身に活力が漲り、教師としての喜びを感じています。思いやりを持ち主体的に行動できる長橋中学校の生徒は、遊びも学びも全力で取り組み、日々多くのことを教えてくれます。生徒をサポートする先生方は、力のある人間的に魅力溢れる方ばかりです。先輩と生徒との関わり一つ一つを観察することが大切な研修です。保護者、地域の方々においては、生徒のことを真剣に考えてくれることが大変有り難く、かけがえのないことを教えてくれます。

## 教師が変われば



小樽市立稲穂小学校  
教諭 佐々木 横 太

皆様への感謝を忘れず、子ども一人一人の変化から多くの良さを見つけ伸ばす手伝ができるよう、日々努力を重ねていきたいです。

一学期の授業では、机の上は煩雑で手遊び、おしゃべりが絶えず、周りの子どもからは、授業に集中できないと文句が出てきました。先輩の先生方に相談し、一緒に解決策を考えてもらった結果、まずは、授業を改善することで子どもたちが変わるということが分かりました。『教師は授業で勝負。』座席の位置、指示の出し方、発表の方法など、あらゆることに意図を持たせて挑み、その子に対しても、活躍の場面を多く設定し、個別に声掛けをするよう心掛けました。しだいに発言や挙手が多くなり、授業に対する意欲が高まっていくのを感じました。周りの友達の見る目も変わり、学級の中で認められるような存在になつてきました。

この半年、子どもや学級を変えていくには、教師が変わらなければいけないことを身をもって体験することができます。子どもの成長のために、プロの教師としての自覚をもち日々精進していきたい思ひします。

## 羊蹄山を見て思うこと



真狩村立真狩中学校  
教諭 相澤 智

雄大な羊蹄山の麓の小さな中学校での生活も半年が経ちました。

札幌の中学校とは違う色々な部分に戸惑いながら、やつと半年が過ぎ去った感じです。中でもバレー部・ボルダリング部の部活動においては、なかなかうまくいかない部分が出てきたりと様々な課題に直面していません。現在は部員数も三人となり、また新たな課題も出てきています。ただ、職場の人たちや他の学校の先生方を含め保護者の方々のご協力により大きく支えられて過ごしてこれることにとても感謝しています。

「先生どうしたらしいの。」「今日の勉強楽しかったよ。」二学期になると、「はじめに子どもありき」の言葉通り、子どものことを最優先に考え、子どもと共に前進し、成長していく自分でありたいです。

## はじめて子どもありき



余市町立東中学校  
教諭 安榮 大和

部活動では子どもと共に汗を流し、学校行事やイベントでは子どもと同じように活動し、休み時間は子どもと何気ない話で盛り上がる。「はじめて子どもありき」この言葉を常に抱きながら過ぎていった約半年間の自分を振り返ると「先生」と呼ばれる自分に対してもまだ不十分な所が多いと感じます。知るべき事、学ぶべき事、感じるべき事がたくさんあり、もっともっと頑張らなければならぬないと自分にプレッシャーをかけています。

「はじめに子どもありき」の言葉通り、子どものことを最優先に考え、子どもと共に前進し、成長して心から喜んでいます。

G O



共和町立東陽小学校  
教諭 大櫃 雅之

共和町の温かな人たちに支えられて、日々自分の心も丸く、体も丸く」という毎日を過ごしています。はじめての担任でつまずくことが多かった一学期。かわいいかわいい三年生二十四名から教わったことの方が多いです。もう激動の四ヶ月間でした。

さて、二学期が始まり、一学期もらつた沢山の「ありがとうございます」と胸に今、学芸会に向けて学級が一丸となるようとしています。まだまだ至らない所もありますが、子どもたちのよい所を認め、全員に居場所がある、そんな学級づくりに力を注いでいきたいです。スマートさはなくとも、這うぐらの気持ちで、精進あるのみです。

## ひとりじゃないから

神恵内立神恵内小学校

教諭 中軽米 真智子



着任して六ヶ月がたつたある日。クラスの人気者の男の子が転校することはになりました。十人という少ない人数からの転校、つらいなと思っていました。それが「一番」と明るく笑顔で過ごしていました。お別れ会はいやだから『またねの会』をすることにしました。黒板一杯のメッセージに色紙、そして思い出の歌「ひとりじやない」を歌い始めたとき、それまで笑顔でいた子どもたちの目に大粒の涙が流れ出しました。ずっと堪えていたんだと思うと私も涙が出てきました。

いつも明るく前向きな子どもたち。十人という少ない人数ですが、だからこそ持つている強い絆。転校という切ない出来事を通して、子どもたちの強さと優しさを感じ、温かい気持ちになりました。

## Goal

島牧村立島牧中学校

教諭 田 村 希



八時間〇一分〇六秒。これは島牧中学校の伝統行事、四十キロを歩く「耐久遠足」で今年初参加の私の記録です。

正直とても辛かったのですが、終わつた今、来年は「七時間台でゴール?」という目標ができました。

人によって目指すべきものは違う。でも『目標をもつて何かに向かう』姿勢。これが大切なんだと実感しています。そうしたことを授業だけではなく、あらゆる学校生活の中で生徒達に伝えていきたいと思います。生徒の心や身体が大きく変化する中学校生活。生徒の成長に負けないように私も教師として

着実に前進していきたいです。

## アームが利かない

仁木町立銀山中学校

教諭 政 所 敬 志



真夏の卓球練習の中、生徒が真剣に吆きました。「ん、アームが利かない。」：彼の言葉に何度も何度も考えさせられました。何気ない一言でしたが、このささいな表現の中に彼の感性、言語感覚、こころの微妙なニュアンスが詰まっていたのです。

ただ、そう思うようになつたのは、ごく最近です。彼が表現した心の機微、生徒達の繊細な心の声が、シンプルな言葉に凝縮されている。赴任して半年、「生徒理解」を深めるほどに実感します。いつも「生徒理解」を心がけた教育活動を。今強くそう思います。

北山の生徒に囲まれ、楽しい毎日を送っています。授業では、一生懸命に話を聞いたり、課題に取り組む生徒の姿を見る度、日々このままの授業ではいけないと感じ、より良い授業を目指し取り組んでいます。

生徒と接する中で今非常に感じていること、それは何事にも取り組む前に諦める子が多いことです。失敗を恐れず、チャレンジすることの大切さを伝えしていくとともに、私自身もそのことを常に忘れず努力し続けていきたいと思います。

## 同じ目線で

小樽市立色内小学校

教諭 小 西 淳 樹



ピイー、「ゴールキック。」私は中休みになるとサッカーの審判になります。春、私の学級ではサッカーをめぐるけんかが絶えませんでした。うまく譲り合つて遊ぶことができずにいたのです。しかし、それは本気で「試合」に臨んでいる証拠であります。けんかでばらになる前の学級をまとめようと私が審判になることにしたのです。

分かりやすく授業をする難しさ。生徒の接し方の難しさ。そして、クラスをまとめていく難しさ。あらためて難しさを感じている。

先生方にもアドバイスをいただきたりして、試行錯誤しながら毎日送っている。その中で、生徒としっかりと向き合つていかなければいけないと感じた。今後も、日々努力して頑張っていきたいと思つています。

## チャレンジ精神

小樽市立北山中学校

教諭 橋 谷 泰 子



念願の教師になつて、早くも半年が過ぎました。明るく、素直な

日々努力

教諭 廣瀬 由 貴



早いもので、四月に着任してから半年以上がたつ。

分かりやすく授業をする難しさ。生徒の接し方の難しさ。そして、クラスをまとめていく難しさ。あらためて難しさを感じている。

先生方にもアドバイスをいただきたりして、試行錯誤しながら毎日送っている。その中で、生徒としっかりと向き合つていかなければいけないと感じた。今後も、日々努力して頑張っていきたいと思つています。

との信頼関係を築き、子どもたちの成長を支えていきたいと思います。

## 実践の広場

# 『道徳の時間における指導法の工夫改善を通して』



ニセコ町立ニセコ小学校  
教諭 福井 勝之

「道徳で研究を進めています。」と言うと、

ねている。

様々な反応がありそうだが、本校では現在、「主体的に考え共に高め合い、より豊かな自分を創る子」という主題のもと、道徳の時間における指導法の工夫改善を通して『自他を大切にし、共に生きようとする子』の育成を目指した研究を進めている。

これまで、基礎・基本の確実な定着を目指して、国語科を軸とした研究に取り組んできたが、児童の実態を鑑み、「豊かな人間性」の涵養が必要であるとの考えに立ち、昨年度から道徳を中心据えた研究へと移行した。

十一月十六日には実践発表会を予定しており、二つの学級が授業を公開する。校内では、それに先だって他の全学級も授業を公開してきた。研究の視点に沿いながら、その概要を紹介したい。

そこで、地域素材を生かした自作の読み物資料を用いた授業づくりに積極的に取り組んでいる。自分たち



## 他教科や体験活動との関連を図った実践

①道徳における指導理論についての研究  
②学習活動の質や指導法の工夫  
③体験的な活動の位置づけの三点を研究の視点とし、このうち、二年次目の現在は、②と③に力を入れ、各学年で発達段階に応じた実践を重

いとする価値に主体的に迫り、資料中の馬頭観音について写真を見せて、実際に自分たちのすぐ身近にあることを告げることで、驚きと共に子どもたちの心に響く時間となることをねらいとした。

「郷土愛」に関しては、有島武郎の農地解放を取り上げた。ニセコにゆかりのある人物にふれることで、自分たちの住むニセコを改めて見つめ直し、より親しみを覚えるきっかけになることをねらいとした。

## 資料の選定や指導法の工夫

道徳の時間は、その時間だけで道徳的判断力や実践力を高められるものではなく、すぐに評価できるものでもない。本校では、事前や事後の取り組みも意識し、長いスパンで児童の変容を見取っていく実践に取り組んでいる。そのためにも、資料は印象深いものでなければならぬと考える。

十六日の実践発表会でも、前述のことを意識した授業の公開や研究発表を行う予定です。一人でも多くの方にご参加いただき、ご示唆いただけ

## 実践の広場

# 『日頃の日常実践から』



共和町立西陵小学校

教諭 野村朋範

使って「ものづくり」なども行いました。たとえばプラバンを使つたキーホールダー作りやスライム作りなどは、子どもたちも大変興味を持つて取り組むことができました。



す場合には、「色によって紙がこげる速さがちがうのかな。」など、子どもたちから不思議だと思つたことややつてみたいことやがいろいろ出てきました。子どもたちのつぶやきを拾い上げることと、時間に余裕があれば子どもたちが思いついた実験などにも取り組むことで自分の意見が生かされる場が存在するという意識を持ち、さらに意見を出しやすい環境を設定することができたと思います。

今年度共和町立西陵小学校に異動してきました。初めての岩宇地区での勤務ということもあり、はじめはなかなか勝手がわからずとまどうこともありました。転勤して半年間たつた現在、今までに実践したことなどを簡単に述べたいと思います。

## 一、はじめに

最初に子どもたちには、いろいろな地域の様子を教えてもらつことから始めました。「どこでオタマジヤクシがとれる。」とか、「どこにどんな店がある。」など、子どもたちに聞くと実際に様々な情報を教えてくれます。これは後ほど校区探検の学習の時に大変役にたちました。また図工や理科などの時間を

## 二、理科の授業を通して

「光を当てよう」の学習では、子どもたちがいろいろなことを発見したり、自分から進んで取り組んでいくこうという様子がよく見られました。

たとえばいろいろな形に切り抜いた紙を鏡に貼り付け、日光を当てる実験では、「近くの物に光を当てる」と切り抜いた形になるのに、離れた物に当てるとき丸い形になる。」ということに気づいたり、虫眼鏡を使って紙をこがばと考へています。

## 三、おわりに

現状では地域の特色を生かした学習について、まだまだ不十分なところも多いので、これからは自分自身が地域のことを知り、それを子どもたちに還元できればと考えています。



## 学校紹介

### 赤井川村立赤井川小学校



『たくましく歩む心豊かな子どもの育成を目指して』

赤井川村立赤井川小学校

教頭植松勉



緑豊かな「カルデラの里」赤井川村。人口千二百六十人、

『日本で最も美しい

村連合』にも加盟し、

自立の道を歩み始めたところです。気象

条件は盆地特有の内陸型気候で、冬の積雪も多く、豪雪地帶

です。村は農業が中

心で、代表的な農産

物として、メロン・スイカ・カボチャ・アスパラ・トマト等です。

このような自然豊かな中で開校百八年を迎えた本

校は、現在教職員十名、児童数四十二名の素直で明るく元気の良い子どもたちがいる学校です。

### 学びを求めて

本校の研究主題は、「一人ひとりが喜びを持つて、学び高め合う赤小の子」～生き生きと伝え合う学習

### 豊かな心を求めて

児童数が少ないこともあり、異学年集団（なかよし班）を中心に活動することが多い。これはテーマに向かって子どもたち一人ひとりの豊かな発想や考え方を生かした自主的な活動を行う



- その一 教師側の見方・考え方を広める
- その二 全教職員で全校児童を育てる意識を高める
- その三 教科学習における見取りの積み重ねを行う

育てたい子ども像を目標に見据えて研究が進められている。そして、子どもたちに満足感・達成感・成就感を与えられるような授業づくりを実践している。



ボランティア活動

毎年十二月の上旬に「ふれあい交流会」で村内在住のお年寄りの方をお招きして交流している。人生の偉大なる先輩の皆さん方との交流を通して思いやりやいたわりの心の育成を図っている。今年度は保育所の子どもたちとの交流も計画され、今まで以上に活発な活動が予想され、幼・小連携の第一歩として期待される。



# 学校紹介

## 〈寿都町立寿都中学校〉



### 「生きる力」を育む

### 特色ある教育活動

**寿都町立寿都中学校**

**教頭 五十嵐 邦春**

#### 「確かな学力」を身につける授業の創造

寿都町は、北海道南西部にあり、函館市と小樽市を結ぶ海岸線のほぼ中央に位置しています。寿都湾の海岸線三二kmは弓状に張り、島牧村、蘭越町、黒松内町と接し、南後志地方の中心的な役割を担う町です。寿都湾を北上する黒潮のため、北海道としては比較的温暖であるが、名物ダシ風のため風速一〇m以上の強風が吹く日が多く、「風のふるさと」とも呼ばれています。

本校は、昭和五四年に寿都、樽岸、湯別、歌棄、磯谷の五校を統合して、新しく「寿都町立寿都中学校」が設置され、来年度で開校三十周年を迎えます。一〇学級でスタートした寿都中学校も、生徒数の減少により、現在では九五名（普通学級三、特支学級二）の中規模校となっています。寿都町には、自然、産業、人材と豊かな教育素材が多く、学校、家庭、地域社会が連携を図った学習活動への取り組みや、社会教育との連携を深め、相互の課題や目標を共有しながら教育活動を展開するなど、「生きる力」を育むための教育活動が展開されています。



「確かな学力」の定着を図っています。

#### 「自ら考え、行動できる生徒の育成」

本校は、これまで「自ら考え、行動できる生徒の育成」を目指した研究を積み重ね、学習指導を通して多くの成果をあげてきました。また、特別活動の「学校行事」や「生徒会活動」においても

その成果が表れ、特に儀式的行事、学芸的行事、体育的行事では、整然と行なわれています。九月下旬に行なわれた校内弁論大会においても、弁士の主張をそれぞれの心でしっかりと受け止めて聞くなど、人の話を聞く態度がしつかり身についています。日常的にも、挨拶がしつかりとで、教室・校舎などは整理、整頓され、校地内の自然環境の整理・美化も自主的に行なわれています。今後も、多くの学校行事が

行なわれていきますが、さらに質的向上を目指した取り組みをしていきたいと考えています。



# 北海道教育研究所連盟第13次共同研究

北海道教育研究所連盟\*1では、全国教育研究所連盟第19期共同研究と同一の主題を設定し、共同研究推進委員会\*2を中心とした研究を3ヵ年計画（平成19年度～平成21年度）で推進します。

## 全国教育研究所連盟第19期共同研究及び北海道教育研究所連盟第13次共同研究主題 実践的な指導力の向上を図る これからの教員研修の在り方

### 【主題設定の基本的な考え方】

- 全教連の研究主題を踏まえ、北海道の課題を明らかにする3ヵ年の研究とすること

### 【主題設定の背景】

- 児童生徒の現状と学校教育への期待
  - ・社会の急激な変化に伴い、喫緊の教育課題が山積みされており、その解決に当たっては、教育に直接携わる教師の資質・能力に負うところが極めて大きいこと
- 教員をめぐる状況の変化
  - ・教育や教員に対する関心や期待が高まる一方で、信頼が揺らいでいること
  - ・北海道の広域性や学校規模の縮小化により、他の地域の取組状況が把握しにくかったり、教員が互いに学び会うことが困難になってきていること

### 【教員研修の重要性】

- 教員自身の自己啓発の意欲と努力が不可欠であり、絶えざる研修が求められていること
- 教員の実践的な指導力の向上に向けて、各学校における日常的・計画的な校内研修の工夫・改善が望まれていること
- 研究所・センター等による、校内研修への支援の在り方について、実践的な視点から考えることが望まれていること

### 【研究内容】

- 1 実践的な指導力の向上を図る校内研修の在り方
  - (1) 授業研究を核としたこれからの校内研修の在り方
  - (2) 組織力を生かした校内研修体制の確立
- 2 実践的な指導力の向上に向けた支援体制の構築
  - (1) 実践的な指導力の向上に結びつく研修の推進

### 【今年度の研究計画】

- 研究の方向性の確立・年次計画の策定
- 校内研修の現状と課題の把握・分析
- 校内研修の在り方に関する理論研究
- 教育研究所と校内研修支援体制の現状と課題の分析
- 教員研修の推進に関する現状と課題の分析
- 実践事例等の収集
- 第1年次のまとめ



\*1 本連盟は、北海道における教育研究所・センターならびにこれに準ずる機関をもって構成する。（昭和25年4月に制定事務局は北海道立教育研究所 平成19年4月20日現在で全道56機関が加盟）

\*2 北海道教育研究所連盟の中から8つの研究所・センター（石狩、空知、後志、胆振、上川、十勝、札幌市、岩見沢市の所員各1名、道立教育研究所から4名、計12名の推進委員で構成される。）

# 研修講座の風景

## ■学校経営(2)

七月三〇日(月)

講師を含めて、四〇名の参加がありました。特別講師として後志教育局義務教育指導班の佐々井利兼主査にきていただき、「学校教育への課題と不安」について講義をしていただきました。

講師 新井 融教頭先生(俱知安小学校)  
松本英昌教頭先生(小樽銭函中学校)

〔受講者より〕

- とても勉強になりました。学校に戻り自校にようやくにかえて実践したいと思います。また夏期休業中に二学期の戦略を校長先生とねりたいと思います。講師の松本教頭、新井教頭、佐々井主査ありがとうございました。

○「教頭の教務」では、改めて新任教頭として四月当初に各種の研修会で伺った部分を再確認できました。



## ■パソコン実技

八月二日(木)三日(金)

講師を含めて、二五名の参加がありました。会場として俱知安町立俱知安中学校パソコン室をお借りし、エクセルやプレゼンなど実践的な内容の講座となりました。

講師 小野正史先生(留寿都小学校)  
平松大樹先生(寿都中学校)  
林一行先生(俱知安中学校)

〔受講者より〕

- 基本的な事柄の全体像がうまくつかめるような内容だつたと思います。講義と実技のバランスがよく、新しいことがよく理解出来ました。すぐに実務で役立ちそうな内容が多く、早速使ってみたいと思います。

○プレゼンは見たことしか無かつたが実際作つてみるとあまり困難さもなく出来て本当に良かったです。また、授業での場面の工夫も出来ることもわかり、今後の授業に生かして行きたいと思いました。



が一何かがおこったときを想定して」という部分、とても大切だと思いました。自分の学校は人数も少なくななか万が一を想定しにくい部分がありますが、それではダメだと思いました。

○どの内容も初歩の私でもとてもわかりやすく今後の参考になりました。(こんなものがあるということがわかりました。)優しく教えていただき、少しやる気が出てきました。今まで知らなかつたことが沢山聞けてよかったです。

## ■技術科

八月一八日(火)

講師を含めて、七名の参加がありました。会場として小樽市立北山中学校技術室をお借りし、金属加工等実践的な内容の講座となりました。

講師 池田満博先生(小樽望洋台中学校)  
大谷一之先生(小樽北山中学校)

〔受講者より〕

- 楽しく作品を作ることができました。免外ですが、説明についても工具の使い方から始まってくれたため確認することができました。作業に入る前の説明の中で評価についてもふれてくれました。とても参考になりました。

○金属加工の手工具や機械について資料や実演を行い、詳しく説明があり大変実りあるものでした。

○資料も実践に使えるものでうれしかったです。先生方のわかりやすい説明と進め方が作業を進めることが出来ました。



## ■へき地複式教育

八月三一日（金）

講師を含めて、一二名の参加がありました。会場として俱知安西小樺山分校をお借りし、木村孝司先生（俱知安西小樺山分校）には複式の授業を提供していました。

講師 丸谷明彦先生（余市大川小学校）

山下貴子先生（俱知安西小樺山分校）

〔受講者より〕

○講師の丸谷先生は、大変わかりやすい資料を提供してくれました。実践に基づいたすばらしい資料だと思います。ありがとうございます。

○複式の在り方、積み重ねが子ども達の意欲などにつながることを改めてわかりました。小規模校だからできること多大にあります

○どの講座でもそうかもしれないが実際に授業を見ることができたのはとてもよかったです。特に複式の授業における“わたり”“ずらし”などは実際の学習場面を見た方が理解しやすく日々の実践に生かしやすいと感じた。



講師を含めて、二〇名の参加がありました。会場として俱知安東陵中学校をお借りし、講師の日野正法先生には授業を提供していただきました。

講師 齋藤直幸先生（余市旭中学校）

斎藤宏志先生（島牧小学校）  
日野正法先生（俱知安東陵中学校）

〔受講者より〕

○初めての参加でした。私はミニマムラインの子としてみんなのお役にたてたでしょうか。他の参加者の皆さんにたくさん声をかけてもらい動いていただき感謝です。講師の先生みなさんありがとうございました。

○中学校の体育の授業を久しぶりに見ました。自分たちでどんどん動けていて素晴らしいと思いました。



指導案データベースは、先のアンケートでも好評を得ております。随時アップしていくたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

昨年度実施分または今年度実施分の指導案を当センターまでメールまたは郵送でお送りください。なお、その際は学長を通してお送り願います。また、個人情報につきましては、センターに送る前に検討し、適切な処理をしていただきますようお願ひいたします。



**指導案提出のご協力願います**

【センターホームページの活用を…】

- ・調査研究事業について
- ・研修講座事業について
- ・後志教育講演会について
- ・教育情報（各校研究主題、各研究団体の紹介、指導案データ等）

## ■保健体育科

九月一三日（木）一四日（金）

今年度の講座は、一月一二日（月）一三日（火）の国語科修講座をもって終了いたします。講師を務めていた先生方、受講された皆様、ありがとうございました。次年度も実践に活ける講座を企画していきたいと思います。

＜発行所＞  
後志教育研修センター  
〒044-0013  
虻田郡俱知安町南3東4  
TEL 0136-22-1337  
FAX 0136-22-2681  
E-mail skc@cocoa.ocn.ne.jp  
<http://www.shiribeshi-etc.jp/>

＜発行者＞ 赤塚 洋昭  
＜印刷所＞  
有限会社 いとう文化堂印刷